

須川展也プロデュース トルヴェール・クワルテット with 横浜市消防音楽隊

公演レポート①

私がこのコンサートの中で一番印象に残ったのは「ナポリ！ナポリ！ナポリ！」です。

この曲はトルヴェール・クワルテットの皆さんが息を合わせて演奏するところがあったり、一人ひとりのソロがあったりしてとても面白い作品です。

私がこの曲が印象に残った理由は、皆さんが楽しそうに弾いていたからです。

それぞれのソロの中では、メロディーをととても速く弾いたり、前髪をかきあげながらかっこつけて弾いたりと観客が思わず笑ってしまうようなアレンジがあったり、皆で合わせるときには本当に楽しそうに弾いていたりして、音楽を芯から楽しんでいるのだなぁと思い、私もとても楽しくなりました。

また、須川さんのインタビューの中で、「音楽、楽器というのは、大好きになったらすごくのめりこめる素晴らしいものだと思う。」という言葉が心に残りました。

なぜかというと、私自身もピアノを習っており、音楽の素晴らしさは分かっていましたが、ピアノを弾いている時に、心の底から音楽の楽しさ、素晴らしさを感じていたかなと考えてみると、そんなに意識して弾いていなかったと反省するところがあったからです。

このように、私は、このコンサートで、音楽というものは素晴らしいということ、そしてそれを楽しんだら、その気持ちは聴いている人にも伝わるということが改めて分かりました。

これからは、トルヴェール・クワルテットの皆さんを見習って、私も音楽の素晴らしさ、楽しさを感じながら、ピアノを弾いたり、歌を歌ったりしたいです。

(次ページあり)

★第一部★

トルヴェール・クワルテットと横浜市消防音楽隊の皆さんのコラボレーションが、魅力満載なコンサートでした！

消防音楽隊の皆さんの音色からは、街の安全を守りたい思いと、音楽が好きだという気持ちが伝わってきました。消防と音楽が結びついている事が、私には新鮮でもありましたが、このように、音楽を通して私たちとの距離をぐっと縮め、身近な存在になってくださる事で、防災への意識も自然と高まっていくのではないかなと思います。

これから冬に向けて、空気も乾燥してくるので、私自身も火元には気をつけよう、と改めて心書き留められる時間にもなりました。

とても華やかで、気持ちが晴れ晴れするようなサウンドを届けてくださった、横浜市消防音楽隊の皆さんに感謝いたします。私自身、大きなエネルギーをもらえました！

★第二部★

続いて第二部はトルヴェール・クワルテットの須川展也さん・彦坂眞一郎さん・神保佳祐さん・田中靖人さんとピアニストの小柳美奈子さんによる演奏でした。

私は吹奏楽部に所属していて、サクスの音色も知っていると思っていましたが、良い意味でそれは間違いだったと気付かされました。

サクスに「こんな世界感があるんだ」、「こんな性格の音色があるんだ」と、たくさんの初めて聴く「音」があり、次から次へと宝箱が開けられていくような感覚。今度はどう意表を突いてくるかな…？と、わくわくしながら探りたくなる高揚感。音のキャッチボールの軽快さに私も思わず身体を乗せたくなる気持ち。とにかく、冒険心をくすぐられるような、新しい世界を開拓していくような、そんな思いになるコンサートでした。

本コンサートを通して、私の音楽の世界がさらに広がりました。

私の音の引き出しも、新たに増やすことができたと思います。

皆さんからいただいた数々の良い刺激を、今後の私の音楽にも活かしていきたいです。

ありがとうございました！！

10月1日に関内ホールにて開催された「須川展也プロデュース トルヴェール・クワルテット with 横浜市消防音楽隊」を鑑賞させていただきました。

全体を振り返って、特に印象に残っていた中学生のプレコンサートについてレポートします！こちらの企画は次世代育成プログラムの一環で、実際に消防音楽隊の皆さんが横浜市内の中学校に足を運び、ワークショップを開催したことが始まりです。このワークショップを受け、実際に指導を受けた“いずみ野中学校”、“上菅田中学校”の吹奏楽部が当日のプレコンサートにてパフォーマンスしました。一般のお客さんがいっぱいになったホールを前に演奏することに緊張していたと思うのですが、そんな様子を見せず、心から楽しんで演奏していることが伝わり、同世代の中学生としてとても誇らしい気持ちになりました。

部活動だけでは体験できないような社会とのつながりをこの2校も、そして私たち中学生プロデューサーも経験することができました！

(次ページあり)

「須川展也プロデュース トルヴェール・クワルテット with 横浜市消防音楽隊」は、さまざまな人が一体になって作りあげた、とてもあたたかいコンサートだったと感じました。

そもそも、私は中学生プロデューサーとして、出演者や司会者の方はもちろん、パンフレットのデザイナーの方や、音祭り事務局の方の熱意やすごさを、計画の段階で身に染みて感じていました。また、コンサート直前の準備のときには、ホールの方やプレコンサートに出演する中学生、その周りの人など、さらにたくさんの人の思いを知りました。

そして、プレコンサートでは、演奏した中学校の吹奏楽部の皆さんが、これからのメインコンサートに向けて、ソロや手拍子など、会場が暖まるいろいろな工夫をしてくださって、プロデューサーの視点ではあまり意識できていなかった、「ホールのいい雰囲気」が十分に醸成されていたと思います。もちろん、その雰囲気に乗ってくれるお客さんが多かったおかげであり、そういった層を的確に拾った広報も、魅力的だったのだと考えられます。

そして、メインコンサートの第一部では「プロの吹奏楽」を、プレコンサートで聴いた学生の演奏とも対比しつつ、また違った魅力(一言で表すなら迫力という言葉がふさわしいでしょうか)を楽しむことができました。曲目も、ポップスの吹奏楽アレンジではなく、もともと吹奏楽用に作曲されたものを演奏していたので、よりその魅力を際立たせられていたのではないかなと思います。また、消防音楽隊やこの「音祭り」にゆかりのある曲を多く演奏できていたので、そういった曲に関する豆知識を得ることができた楽しさもあったと思うし、出演者の方々が楽しそうに吹いていらっしゃるのを見ることができたのが、会場の一体感という意味ではすごく良かったと思います。また、ここまでで作られてきた雰囲気のおかげで、消防からの「火災報知器の点検」という少し堅めのお願いも、暖かく受け止めてもらえて、しっかり伝わったように感じました。

そして、須川展也さんがプロデュースし、トルヴェール・クワルテットの皆さんが喋り、演奏してくださった第2部。ここまでの暖かい雰囲気も、ついに世界のトルヴェールの四重奏を聞ける、ということで、少し引き締まったような気もしました。けれど、流石は一流のエンターテイナーといったところでしょうか、トークですぐに、お客さんと打ち解けた雰囲気ができました。中でも驚いたのが、客席にいた作曲者の方や中学生プロデューサーを紹介していたことです。私を含め、多くのお客さんが「さまざまな人の力によってこのコンサートはできているのだ」ということを再認識できたと思います。また、サックスの歌声のような音色を生かして、「惑星」や

「ナポリ！ナポリ！ナポリ！」のような曲目では、感情を込めて、舞台上で物語を語るような演奏をしていたのが印象に残りました。「ナポリ！」では、コミカルな動きに、笑いが起きるような場面もありました。このようなさまざまな工夫によって、リラックスしながら、サックスの格好よさ・可能性のようなものに出会うことができた一幕だったと思います。

このように、このコンサートは、いろいろな人が、いろいろな方向性から、いろいろな楽しみ方ができるようにと工夫したことを楽しむことができるのが魅力のコンサートでした。音祭りではさまざまなジャンルの音楽が楽しまれると思いますが、その中で、吹奏楽・サックス四重奏の多面性・暖かさに触れられるのは、とてもよかったなと感じました。